

第7回
新型コロナウイルス感染症の
感染動向の推移を評価する打合せ会
専門家の意見

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見①

千葉県内の主要な繁華街では人流が再拡大しています。お盆の休暇時期は減少傾向にあり、このまま持続することを期待していました。

ワクチン接種率、特に**65歳**以上では**2回**接種者が**86%**に達しています。全年齢では**32%**です。**65歳未満**の世代のワクチン接種が一段と普及することを期待したいところです。

新規感染者は上昇傾向にあり、**8月22日**集計の直近**7日間**平均は**1543**人です。

PCR検査の陽性率は**28.93%**であることから、検査件数がまだまだ少ないと思われます。したがって、検査が実施されず、発見されていない患者がまだまだ潜在していることを懸念します。

変異株分析では、**90%**がデルタ株です。

一部の世代、一部の地域では新規感染者が鈍化に転じたと思われる数字もでていますが、**10歳代**では増加傾向にあります。夏休みが終了したあとの動向に注目が重要です。お盆の休暇後の人流拡大、高い検査陽性率、デルタ株の割合、若い世代での感染拡大などを考慮すると、本当に減少傾向に転じたと断言できる状態ではありません。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②－1

現状の評価と今後の見通し

- ・他の関東圏の地域と同様に、千葉県内での感染者数の増加は続いている。
- ・PCR陽性率が30%近くまで上昇していること、陽性者における無症状者の割合が小さくなっていることは、有症状者中心にしか検査が実施されておらず、実際の感染者数は把握できている数よりも大幅に多いことを示唆している。
- ・高流量式鼻カニューラ酸素療法と人工呼吸器管理中の入院患者数を合わせた数は、重症患者用の入院病床数を大きく上回っており、重症者を受け入れる病床は満床を超えた状態と考えられる。
- ・自宅待機患者が激増しており、自宅からの救急要請が増えているが、入院先が見つからずに救急車が長時間立ち往生するような事態が頻繁に発生しており、自宅での死亡事例も増えてきている。
- ・小児の感染者数が増えており、二学期の開始に伴い、更に増えることが予想される。
- ・先週は人流が減少したような傾向があったが、今週は再度増加しており、お盆で通勤者が減少していたことによる影響が大きいと推測される。

※重症病床以外の病床においても高流量式鼻カニューラ酸素療法を行っています。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②-2

必要な対策

- ・ 救急搬送困難事例や在宅での死亡事例を公表し、一般住民に対して災害状況であることを伝え、感染者を減らすための更なる協力を引き続き依頼する。
- ・ 二学期の開始に伴う、小児の感染者増加を避けるために、学校内での感染対策や学校活動自体の制限を検討する。
- ・ 若い世代のワクチン接種をできる限り推進し、流行拡大を抑制する。
- ・ 妊娠中の方、およびその同居家族に、できるだけ早くワクチン接種を提供し、妊婦と胎児を守り、周産期医療の負担を少しでも軽減させる。
- ・ 酸素投与が不要で退院可能な場合には、療養解除期間前でも速やかに自宅療養に切り替え、利用可能な病床を入院優先度の高い患者のために使用する。COVID-19対応に参加していない医療機関の協力を強く要請する。県民に、非常事態下における優先順位をつけた入院調整、早期退院の方針を理解してもらう。
- ・ 在宅酸素導入の体制整備、入院待機酸素ステーションの設置をできるだけ早く行い、救急車が長時間、立ち往生する事態を防ぐ。
- ・ 重症化リスクの高いホテル療養者や自宅療養者に、抗体カクテル療法を実施する体制を早急に整備する。